

第2回働き方相談カフェ結果レポート

社団法人日本人材派遣協会では、派遣スタッフの方が現在のお仕事の悩みや今後の働き方について、キャリアカウンセラーを交えて相談することができる第2回「働き方相談カフェ」を開催いたしました。今後の働き方の参考にいただければ幸いです。

日時 平成24年3月14日(水)
午後7時~8時30分
参加者 派遣スタッフの方1名



<相談カフェレポート>

- 桑 島 では、Aさんの自己紹介をお願いします。
- Aさん 一般派遣で働いており、同じ就業先で5年が経過しました。直接雇用を希望しており、第三者の意見も聞いてみたいと思い参加しました。
- 桑 島 今は具体的にどのようなお仕事をされていますか？
- Aさん 今は、秘書業務と部内のアシスタントを兼務しております。
- 桑 島 1社で5年というのは長いですね。環境がいいのでしょうか？
- Aさん 最初は厳しくて、残業も10時、11時までしておりました。働き方が正社員とどう違うのかが悩みでした。
- 桑 島 今のお仕事に就かれる前は、正社員だったのですか？
- Aさん はい、正社員としてメーカーで営業職をした後、少し仕事を離れていました。
- 内 藤 派遣でのお仕事は、今のところが初めてですか？
- Aさん 長期のお仕事は今回が初めてですが、短期の派遣の仕事はたまにしておりました。
- 桑 島 初めての長期のお仕事で、そのまま長く働いているのですね。今後は正社員を考えているのでしょうか？
- Aさん そうですね。再び働き始める時点では、一般派遣や紹介予定派遣、契約社員、正社員などの区分けを今ほど理解していませんでしたが、今考えれば紹介予定派遣に絞れば良かったと感じます。一般派遣のお仕事を多く紹介していただけだったので、特に考えずに働き始めてしまって。それから直接雇用になれるのかという期待がどこかにあり、働いているうちに5年が経ってしまいました。この年齢だと他社への就職も難しいかなとも思います。
- 桑 島 そうすると、お勤めしながらも、このままでは自分の希望とは合っていないなという思いはありますか？
- Aさん そうですね。やはり将来が不安です。派遣社員ではいつ仕事が終わるかわからないので。それから、正社員になりたいという気持ちがあると頼まれた仕事を断

れず残業も増えます。ライフスタイルを大切にしたい働き方を望んでいる方が派遣社員として働いているのだと思いますが、私のまわりでは、私と似たような状況の方が大勢いて、皆さん同じような不安や悩みを抱えている状況です。

桑 島 派遣で仕事をしている方は大きく 2 タイプあって、他にやりたいことがあるため条件重視で派遣で働く方と、正社員を目指し就職活動を続けながら派遣で働く方です。正社員を目指している方にとっては、派遣の仕事が忙しいほど、自分のことを考える時間をどうやってつくるかというのが難しいテーマですね。忙しくてあまり考えずに再契約してしまいましたという話はよく伺います。

A さん そうですね。最初の数年は本当に忙しくて、次の職場を探す余裕もなかったので、依頼された仕事をひたすらしていき気がついたら3年が経ちました。

内 藤 今の会社では、実績として、あるいは制度として、派遣社員の方を正社員に登用することはあるのですか？

A さん 数年前に、派遣で長く働いている方数名を直接雇用に切り替えたことがありました。派遣先がしばらく事務職を採用せずに派遣社員だけでやってきたからです。また、派遣だけだとやめる方もいて間があいてしまうので、昨年からは新入社員の事務職を採用し始めました。私が派遣に入ったタイミングは、そういう採用の切り替えのときでした。ただ、数年経っても派遣社員の方もいるし、2年目で正社員になる方もいて、定義がよくわからないのです。部長の意向もあるようなので、今は無理でも、次の部長だったら正社員になれるのか・・・とも思っています。

内 藤 複雑ですね。そういう事例が無ければ、踏ん切りをつけ正社員を目指し就職活動をすればよいのですが、お話を聞いていると、はっきりしないために期待を失ってしまいますよね。

A さん 自分の年齢も考えてしまい、これからどんな働き方をすればいいのかとても悩みます。転職をして、他の会社で一からとなると、ここで5年間やってきたことがもったいないとも思いますし、なかなか今の状況からどの方向に進んでいけばいいかわからないという感じです。

桑 島 普段、派遣スタッフの方から正社員になれるかどうかのご相談いただく場合には、まわりにそのような事例がないことがほとんどなのですが、Aさんのように、実際にまわりで自分よりも経験の浅い方が正社員に採用されたりするのを、目の当たりにされていると、気持ちも苦しいですね。

A さん 自分の部署ではなかったのですが、別の部署で新しく入ってきた方がすぐに正社員になったりすると、他の派遣社員方は、あれっ？と思ったり・・・。もしかしたら自分も採用されるのではと思う人も多くいます。また法律もときどき変わっていくのでそのタイミングも・・・。例えば法律で、5年以上、同一雇用主のもとで働いている場合は無期契約にしなければいけないとなったときに、うっかり転職したら、この5年が無駄になってしまうのかなとも思い、難しいですね。

桑 島 正社員になりたいという希望を伝える場はあるのですか？

A さん 派遣会社の営業の方にだけです。営業の方から派遣先の部長へお話はしているみたいなのですが、はっきりしない状況で、今後自分のことを考えたときには、どうしようかなという気持ちになります。

内 藤 派遣や契約社員ですと、現場の部署の部長で采配できることが多いのですが、正社員となると、会社の人事など様々な人が関わってきます。その部長の意向で人事と話をしてくれるかどうかもあり、難しいケースかもしれないですね。

桑 島 正社員になった場合、事務ではない仕事への異動や、転勤しなければならなくなったら、いかがですか？

A さん 私の場合は、問題ないです。今の会社ですと、バックオフィスと総合職とは分かれていますので、正社員になっても事務職から営業職に変わることはほぼ無いようです。

桑 島 今の仕事でそのまま正社員になれると本当にベストですか？

A さん はい。やはり5年もいると、人間関係もできているので仕事がしやすいです。新しいところに行くと、また一からはじめることになるので、出来れば今のところで、正社員で働けると有難いのですが。

桑 島 正社員への希望が強い派遣スタッフの方には、一つでも多くのチャンスを自分でつくるように動いていったほうが良いと、お伝えします。今の仕事は手放さずに働きながら、正社員の仕事を探す時間を確保したり、人脈づくりをしていかないと、新しい扉がひらかないというお話をしますが、Aさんの場合は、今の仕事で正社員になるのがベストという理想があるので、それをどこまで待つのかですね。5年も仕事を任せられていて実力もあるでしょうから、本腰をいれて別の扉を探しにいったら、また違う展開もあるのではないかと率直に思います。ただし、今ほど行きたい会社ではないという思いがあると、他社に応募をしても、気持ちが入らず、履歴書でも、面接でも、熱意をあらわすのが難しいので、踏ん切りをつけるのか、あるいは今の仕事でいけるところまでいくのか判断がしにくい。きっとよい環境なのでしょうね。

A さん 人間関係がとてもしっかりしているので、また新しいところで一からはじめるのは大変だとは思いますが、ずっと派遣社員で働いて、40歳を過ぎてから契約が終わってしまった時に、また仕事があるのだろうかと考えてしまいます。

内 藤 例えば一年後に会社の業績が悪くなり、再スタートとなった場合を考えると、自分から動きだしておいたほうが良いですね。また、派遣先企業の規模にもよりますが、ふつうは正社員に切り替えるときは、何か条件や決まったルールなどが、人事にありますので、自分が合致しているか聞くことができると思います。

A さん はい。皆さんのお話を聞いていて、確かにそうですね。

森 ライフプランとしては、定年まで働きたいとお考えですか？

A さん そうですね。出来るのならこの会社で。結婚や出産など女性はいろいろとあり

ますが、それもいつになるのかわからないので。結婚などを頼りにするのも不安なので、やはり正社員になって、どんな状況になっても生きていけるようになればいいなと思います。

内 藤 事務の仕事がよろしいのでしょうか？

Aさん そうですね。事務や秘書業務などは性格的に向いていると思います。営業をやっていた頃も楽しかったのですが、プランクがあるので難しいかと……。女性のほうが結婚や出産などに左右されやすいので、キャリアをつくっていくのが難しいと実感します。

内 藤 よく考えていらっしゃるんですね。選択肢がそれしかないという状況ではなく、いくつか他の選択肢を持ち、何かあったときにはすぐに動けるように準備をしておく、不安が軽減します。こういう仕事をこんなふうに見つけて……。イメージし、できれば少し動いて、今自分が仕事を探すことになったら、どんな選択肢があって、どのくらい紹介されるのかを実感値として持てると、また発想が変わるかもしれないですね。

Aさん 実は実際に少し動いてみました。昨年くらいから、いつ雇止めになるかと思い、自分が他社で働く場合に何が武器でキャリアとして認めてもらえるのかを考えて、TOEICなども取得しました。また、大手の不動産会社で事務職の正社員を募集しており、書類選考は通ったのですが、面接に行ったら明らかに自分より若い人が大勢いたので、ひるんでしまいました。そういうのを実感してくると、この先どうしたらいいのかと思います。だからといって今の仕事をすぐにどうのというわけではないのですが……。

桑 島 状況が変わったときのために、飛び立つ準備は常にしておいたほうが、絶対にいいですね。今の契約を満了という状況になったときに、今まで積み上げたものは無くなることはなく、経験を活かせるというのが、キャリアを積んできた武器です。確かに面接に行って、若い方が大勢いたら、ひるむことはあるかもしれませんが、そこで、この中で私が一番経験を持っていると輝いていられるようになるためにはどうしたらいいのか、気づくいい機会だったのではないかと思います。

仕事を変えたとしたら、直感で合う、合わないというのを感じる場合と、業界の研究などで初めて判断できるものと両方ありますので、面接に行って対応に慣れるというのは、勘をどんどん磨いていくことになりまして、時間をつくって、業界や、会社の規模を考えることは、知識を磨いていくことになりまして。忙しくて流されて気がついたらというのが一番もったいないと思います。仕事の時間が充実している方ほど、次に飛び立つ準備が出来なくなってしまうがちですが、そこは何とか踏ん張ってください。

それから、今の会社の正社員になれないことで生じるストレスを増幅させないように。ここで声がかからなかったら、よそから声がかかる人間になっているから大丈夫と思えるところまで、準備しておくといいと思います。先の見えないこ

とを期待するのは、磨り減ってしまいますので。

Aさん この1年で磨り減ってきました。それまであまり考えずにひたすら仕事をしていて、気がついたらこんなに時間が経っていて、最近は考え出すと、20代で再び働き始めるときにも正社員という選択をしていなかったのが悪かったのかなと、後悔してもはじまらないのですが。

内藤 正社員ですと、20代でというのが確かにひとつありますが、35歳という壁もあるんです。35歳をどういう状態で迎えるのがご自身にとっていいのか、納得感があるのかということが重要ですね。

Aさん いつでも飛び立てるようにとか、他の会社でも通用する人間になるような強みをもっておくようとか、気持ちとしてはあるのですが。法律的なことも気になっています。この間、派遣法についてネットに掲載されているのを見たのですが、私みたいに5年働いて、しかもずっと同じ部署で同じ専門26業務でいると、同じ部署で同じ業務の方を採用しようとする場合は、派遣スタッフを社員にしなければいけないというルールがあるんですね？もしくは、新しいポジションに、正社員を採用するとなったら、その前に派遣スタッフに声をかけなければいけないルールもあるらしく。法律的に、制度としてはどうなのかと思ひまして。

事務局 制度としては、専門26業務で3年を超えて働いている場合、同一就労場所でもなたかを同一業務で雇用しようとする場合については、今まで働いている派遣労働者に対して、雇用契約の申込みをしなければいけないということになっています。だから、どなたかを正規の職員として同一業務に雇用しようすると、派遣スタッフに声をかけなければいけないのです。しかし、他の部署から異動してきた場合については適用がありません。

Aさん そうなんですね。法律が改正されたりすると、状況がいろいろ変わりますね。

事務局 そうですね。今も改正法案が衆議院を通過して、参議院へ送られています。雇用契約の申込みのみなしという制度が入っています。これは違法に派遣を受け入れている場合、例えば許可が無いところから受け入れていたり、26業種という契約なのに実態は自由化業務でそれを知りながら派遣を受け入れているといった場合に派遣受け入れ期間制限違反となり、派遣スタッフから派遣先に対して雇用契約の申込みのみなしが認められるというものです。ただこれは、法律が施行されてから3年後から施行となります。3年後なので、そこまで待つのがいいのかということもありまして、ちょっと悩ましいケースですね。

Aさん 今のお話を伺っていると法律が変わることを期待しないほうがよさそうですね。

事務局 それよりもっと前向きに、今のところで正社員になる可能性がそれほどないのであれば、自分のもっている知識をいかす場として紹介予定派遣で登録をしながら試してみることもありますね。TOEICももっていらっしゃるのですよね。

Aさん はい。TOEICはもっています。

内藤 語学をいかしてもいいですね。事務でも専門性の高いスキルを身につけて、経

験をつんでいくほうが、結果的に長くお仕事をすることができると思います。経理などもいいと思います。

Aさん やはり秘書とか部内アシスタントよりは、貿易事務や経理などの職種のほうが女性も長く働ける傾向があるということですよ。

桑島 そうですね。正社員だとしても、会社が未来永劫存続するかどうかはこのご時勢なのでわからない部分がありますので。例えば英語のスキルを強みとしていて、貿易や経理の知識があると、事務の自分の経歴にプラスとなり気持ちも強くなれますし、実際に仕事を探すにあたっても有利です。1社で長くお勤めをしているのはもちろんすごいスキルですが、それにプラスして資格や知識など、専門性は絶対にあるほうがいいと思います。

Aさん 専門性を身につけていくことが本当に大事なんですね。

桑島 そうですね。いろいろなことが出来るというのを人にわかってもらうというのはなかなか難しく、例えばアシスタントの仕事はとても大変ですが、調整能力や、もれなく遂行していく力は、難易度が高くて、どこかに応募して書類選考となったときに、伝わりづらいですよ。書類選考でもアピールできるような、専門知識をわかりやすいかたちで持っているというのはすごく有利になると思います。本当は自分としては、そういうところではない部分を見て欲しいなと思うでしょうが。

Aさん 本当に難しいですよ。これまで、何が忙しかったのかと振り返ると、個人的に頼まれた仕事などそんなのばかりで、いざ書類に書き出してみると難しいですね。

内藤 やはり TOIEC のスコアとか貿易事務経験とか、わかりやすい経験や資格のほうが、武器としては強いですよ。どこにいても転用しやすいです。

Aさん そうですね。磨いておいたほうがいいですよ。

内藤 そうですね。個別の状況も合わせて派遣会社に相談されてもいいかもしれません。他に何かお聞きになりたいことはありますか？

Aさん 今日は本当にきてよかったです。友達に相談しただけでは聞けないことをたくさん伺えたので。

事務局 それはよかったです。それから、経験というのはすごく武器になるので、先ほど面接などで若い人達がいっぱい来たときにも、自分はこういう経験があるのだということをアピールしていくというのも、強みになりますので、そこはもっと自信を持っていいと思います。

Aさん そうですね。確率の低いことを期待して、5年が経ってしまったなど、やはり今日お話してみてもあらためて思いました。

事務局 最後に今後の正社員の職を探す際の参考資料ですが、有効求人倍率は、事務の欄をみますと0.2で、かなり低いことは確かです。また、規模別一般新規求人状況をみると、29人以下の企業では、46万人ですが、1000人以上の大企業の場合は9311人しかいないことがわかります。中小企業でもいいところはあり

ますし、規模だけではなく、自分が本当にやりたい仕事が出来るところを探して
いただきたいと思います。今日はいろいろお話をお聞かせいただき、本当にどう
もありがとうございました。

以上